

## 2023年度（公財）帝人奨学会

標記財団からの推薦依頼に基づき、以下のとおり、募集します。応募に際しては必ず、募集要項等で詳細を確認してください。

応募資格	<p>(1) 財団が提示する応募資格を全て満たすこと。</p> <p>① <b>医学・薬学・バイオ学系、理工学系、工学系、情報系等に在籍している院生</b></p> <p>② <b>2022年秋(9・10月)または2023年4月に博士課程に進学することが決定してる、または見込まれる大学院生</b></p> <p>(2) 在留資格が「留学」であること（あるいは「留学」へ変更申請中であること）。</p> <p>(3) 2022年度において休学、原級、在籍原級、留籍をしていないこと。 また、応募する奨学金の受給年度において休学、原級、在籍原級、留籍の見込みがないこと。</p> <p>(4) 2022年度に懲戒処分を受けていないこと。また、応募時点で懲戒処分期間中ではないこと。</p>
推薦者数	一括応募
学内締切（厳守）	2022年9月20日（火） 16：00
提出書類	<p>募集要項をよく確認し、以下の①～④を提出すること。</p> <p>① 奨学生志願調書（所定用紙,写真貼付） ※志願者本人が作成</p> <p>② 奨学生推薦調書（所定用紙） ※各自で指導教授に作成依頼</p> <p>③ 現在の研究概要をA4判2～3枚に簡潔にまとめたもの1部</p> <p>④ 学業成績証明証（直近のもの、原本）</p>
提出先	国際教育事務室（駿河台・和泉・生田）または中野教育研究支援事務室
重要事項	特になし
注意事項	<p>(1) 応募に際しては必ず、「募集・推薦要項」で詳細を確認してください。</p> <p>(2) 学内での応募についてはこの学内募集要項の指示にしたがってください。</p> <p>(3) 不明な点がある場合には、国際教育事務室、中野教育研究支援事務室（中野キャンパス低層棟3階）へ問い合わせることとし、<u>直接、当該財団に問い合わせないでください。</u></p> <p>(4) 学内応募については、他の奨学金との併願を認めますが、同一の学生を併給が認められない複数の奨学金には推薦しません。</p>
個人情報の取り扱いについて	明治大学は、「学校法人明治大学個人情報保護方針」ならびに本学「個人情報の保護に関する規程」に基づき、日本学生支援機構奨学金、学内奨学金、その他の学外奨学金の申請者及び保護者等関係者の個人情報（学籍異動・成績情報を含む）を奨学金業務を適切に遂行する目的以外には使用しません。また、個人情報提供先については、法令に遵守した形で行い、これらの目的以外に個人情報を利用しないことを約束します。
お問い合わせ	〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学 国際教育事務室 奨学金担当 (03-3296-4146)



第71回(2023年度)  
帝人久村奨学生 募集要項 [博士課程]

2023

TEIJIN SCHOLARSHIP FOUNDATION  
KUMURA

本奨学金の特色

- 1) 博士課程10万円/月を貸与(他奨学金との併給が可能)  
外国人留学生の場合は、6万円/月を給付。
- 2) 卒業後、帝人奨学会指定の大学や研究機関等で学術研究活動に所定期間従事した場合には、返還が免除されます。
- 3) 修士課程の帝人久村奨学生が引き続き博士課程でも帝人久村奨学金の貸与を希望する場合は、選考過程の一部が免除となります。(給付は対象外)
- 4) 本奨学金は、経済的困窮度よりも、成績・研究に対する熱意や取り組み内容を重視します。
- 5) 本奨学金を受給したことによる帝人グループ各社への入社等その他の付帯義務はありません。
- 6) 在学中に海外へ留学する場合は、正規の修業期間を上限として貸与・給付を継続します。

公益財団法人帝人奨学会

# 募集要項

## 1. 応募資格

医学・薬学・バイオ学系、理学系、工学系、情報学系等に在籍している学生で次の条件に該当し、学部長又は学科主任教授の推薦を受け、かつ学校推薦を受けた者。

●2022年秋（9月、10月）または2023年4月に国内大学の博士課程に進学することが決定している、または見込まれている大学院生（外国人留学生も可）

\*現在在学している大学から、他の大学院へ進学する場合は原則として現在の大学から応募してください。

\*外国人留学生の場合は、留学予定先の国内大学から応募してください。

## 2. 採用人員

10名程度（1名程度を外国人留学生（給付）とする）

## 3. 採用基準

本奨学金では、経済的困窮度よりも、成績・研究に対する熱意や取り組み内容を重視して選考します。

## 4. 選考方法

### (1) 第1次選考

書類選考

### (2) 第2次選考

第1次選考合格者に対して、次の系列毎の専門面接により選考します。

- 医学・薬学・バイオ学系（医学、薬学、生物、環境等）
- 理学系（化学、物理、材料等）
- 工学系（電気・電子工学、機械、建築等）
- 情報学系（情報システム、電子システム等）

### (3) 最終選考

第2次選考合格者に対して、当会選考委員による面接を実施し、奨学生を決定します。

## 5. 選考スケジュール

### (1) 博士課程進学予定者

選考方法	日程	場所
2次面接	11月上旬～中旬に実施	帝人（株）東京本社内
最終面接	12月13日（火）に実施	帝人（株）東京本社内

※選考日時・場所等の詳細については、受験者宛に別途ご案内します。  
※新型コロナウイルスの影響によりオンラインでの面接等に変更となる場合がございます。  
※面接時の交通費は国内移動分のみ全額支給します。

(2) 2023年度修士課程進学予定者については  
2023年1月～3月頃に募集致します。

## 6. 提出書類（応募書類は当会HPからダウンロード可）

- (1) 公益財団法人帝人奨学会帝人久村奨学生志願者調査書（所定用紙、写真貼付）：志願者本人が作成するもの。
- (2) 公益財団法人帝人奨学会帝人久村奨学生推薦調査書（所定用紙）：指導教授に作成いただくもの。
- (3) 学業成績証明書（直近のもの）
- (4) 現在の研究概要をA4判2～3枚に簡潔にまとめたもの1部（文字サイズは11ポイント以上、カラー不可）

(5) 個人情報の取扱いに関する同意書（所定用紙）  
：志願者本人が自署したもの。

(6) 在留資格認定証明書（在留カード等）  
※外国人留学生のみ

## 7. 提出締切日

2022年9月28日（水）必着

## 8. 最終合否の決定

2022年12月下旬までに最終的な合否結果を大学院に文書で連絡します。  
志願者本人にはEメールでご連絡します。

## 9. 奨学金の取扱い概要

### (1) 貸与または給付期間

2023年4月から正規の博士課程修了月までとします。  
※在学中に海外留学する場合は、正規の博士課程修業期間を上限として貸与・給付を継続します。

### (2) 奨学金貸与額または給付額

①貸与額

2023年度募集 100,000円/月（博士課程）

②給付額（外国人留学生）

2023年度募集 60,000円/月（博士課程）

※本誌第1項応募資格で規定する資格保有者で且つ日本国への外国人留学生は「給付」とします。尚、当会が定める外国人留学生とは、出入国管理及び難民法における「留学」に該当する者を指します。

### (3) 貸与または給付開始月

2023年4月から開始  
※2022年秋（9月、10月）入学者も同様です。

### (4) 貸与または給付方法

奨学生指定の金融機関の個人口座に偶数月初旬に貸与額の2ヶ月分を振込みます。

### (5) 貸与金の返還

ア. 当会指定の大学研究機関等（独立行政法人日本学生支援機構が指定した機関に準じます）で学術研究活動に所定期間従事した場合には、返還を免除します。※所定期間：貸与期間の2倍の期間

イ. 上記ア. 以外の場合には、貸与期間終了6ヶ月後から奨学金貸与月数の5倍の期間以内に半年賦で返還いただきます。但し、貸与金は無利子とします。

### (6) その他

- ア. 他の奨学金との併給が可能です。
- イ. 帝人グループへの入社等その他の付帯義務はありません。
- ウ. HPに掲載されている先輩帝人奨学生からのメッセージやFAQもぜひご覧いただき、応募の参考としてください。

# 公益財団法人帝人奨学会概要



帝人(株)創業者  
久村 清太氏  
(1880-1951)

公益財団法人帝人奨学会は、1953年6月の帝人株式会社創立35周年を記念した「帝人奨学会久村奨学生制度」を端緒として発足しました。翌1954年、この制度の一層の発展を期すため、奨学金事業を主事業として、財団法人帝人奨学会を設立しました。その後2011年に内閣総理大臣の認可を得て「公益財団法人帝人奨学会」に改組し今日に至っております。

帝人奨学会の目的は、人造絹糸(レーヨン)の製造技術を独自に確立し、「日本化繊工業の父」と呼ばれた久村清太氏の功績を讃えて、独創的な研究開発の精神を継承発展させるとともに、国家・社会の発展と文化創造に貢献する「若き科学技術者を育成する」ことにあります。

創立以来この制度を貫く本質的な精神は変わっておりません。本制度は一企業のためではなく、国家社会の発展を担う人材育成を主眼としております。このため、卒業後、大学や公的な研究機関で研究に従事する場合は、奨学金の返還を免除しています。また、将来の科学技術を担う研究者を育成するために、経済的な条件等を問わず学業優秀であれば奨学金の貸与を認めております。更に、本制度は発足以来、帝人株式会社への入社等の義務的拘束は一切設けておらず、公益財団法人の本質を堅持しております。

これまでに、ノーベル化学賞受賞者など1,600名以上の方が大学研究機関や民間企業で活躍されています。

## 1. 沿革

1953年(昭和28年)6月  
帝人株式会社創立35周年事業として、育英制度を設立。  
1954年(昭和29年)7月  
文部大臣の許可を得て、財団法人帝人奨学会が発足。  
2011年(平成23年)10月  
内閣総理大臣の認定を受け、公益財団法人へ移行

## 2. 目的

科学技術者としての自己の使命を自覚し、国家・社会の発展と文化創造の担い手となる人材の育成を目的とする。

## 3. 帝人久村奨学金及び帝人久村奨学生命名の由来

日本で初めて化学繊維(レーヨン)の製造技術を確立し、その後の化繊工業の発展の礎を築いた、久村清太氏の功績を讃え、その偉業を永く後世に伝えるため、当会の奨学金を「久村奨学金」及び奨学生を「久村奨学生」と命名し、50周年を機に「帝人久村奨学生」、「帝人久村奨学金」と改めました。

## 4. 事業内容

技術系大学院生に対する帝人久村奨学金の貸与・給付。

## 5. 奨学生の実績

累計奨学生数：第1回(1953年)より第70回(2022年)  
までの帝人久村奨学生1,706名

## 6. 役員 <50音順>

理事長  
鈴木 純(帝人株式会社)

理事  
伊藤 大雄(電気通信大学大学院教授)  
(選考委員兼務)  
太田 茂(広島大学名誉教授)  
大田 治彦(九州大学名誉教授)  
(選考委員兼務)

監事  
嶋井 正典(帝人株式会社)  
高原 淳(九州大学名誉教授)

評議員  
岩澤 伸治(東京工業大学名誉教授)  
金井 浩(東北大学大学院教授)  
小山 俊也(帝人株式会社)  
八島 栄次(名古屋大学大学院教授)

選考委員  
相田 卓三(理化学研究所 創発物性科学研究センター 副センター長)  
小比賀 聡(大阪大学大学院教授)  
片岡健一郎(帝人株式会社)  
唐澤 利武(帝人株式会社) (2022年7月1日現在)

## 『若者よ海外へ出よ!』

～ノーベル化学賞 受賞(2010年)米パデュー大学 根岸 英一 特別教授からのメッセージ～

1958年に私が帝人に入社したころ、当時の大屋晋三社長は「若者よ海外へ出ろ。10年に1ヶ国語ずつ学べば、30年で3ヶ国語が話せるようになる。そうすれば君たちも世界で通用するようになる」と仰っていました。私がこのような道を歩むことができた原点は、この大屋社長の言葉にあります。

私の専門である化学のコンペティション(競争)の場は世界であり、いまや我々のプレーグラウンドは世界です。また学ぶための師も世界単位で探し、世界の競争の中でトップになることを目指す時代です。そういう意味で、皆さんのような若者には、積極的に海外へ出て頂きたいと思います。

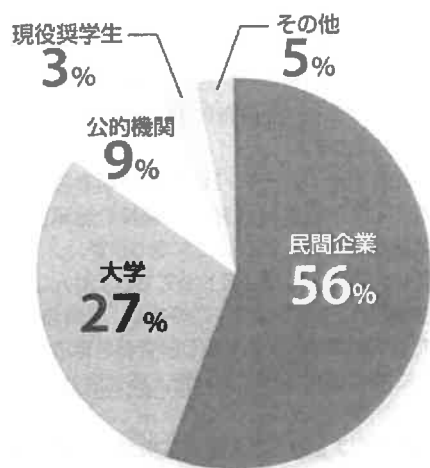
そして自らの「夢」を見つけたら真理を突き詰めるまで、とことんチャレンジしてください。今後の皆さんの大いなる活躍に期待しています。



米パデュー大学  
根岸 英一特別教授  
(帝人グループ名誉フェロー)  
帝人久村奨学生第5回生(1957年)

<2013年11月ご寄稿>

## 帝人久村奨学生データ



帝人久村奨学生総数 **1,706名**

現役帝人久村奨学生 **47名**

(2022年7月1日時点)

## 帝人グループについて

帝人グループは、長期ビジョンである「未来の社会を支える会社」の実現に向け、中期経営計画 2020-2022「ALWAYS EVOLVING」に基づき、成長基盤の確立を目指して、「環境価値」「安心・安全・防災」「少子高齢化・健康志向」の3つのソリューション領域への積極的な資源投入や、イノベーション創出基盤の強化などへの取り組みを進めています。マテリアル事業領域では、モビリティにおける高機能・軽量化をはじめとし、お客様へソリューションを提供するビジネスモデルへの転換に取り組むと共に、カーボンニュートラルの実現に向けた投資を先行して実施しています。ヘルスケア事業領域では、糖尿病治療薬の販売権を取得し、生活習慣病の予防や重症化予防に貢献するサービス拡大に向けた基盤を確保するとともに、当社グループが持つヘルスケア/マテリアル/エンジニアリングの技術基盤の融合による事業として、再生医療事業分野に着手しています。

その一方で、2020年に端を発した新型コロナウイルス感染症の拡大はグローバルレベルで未だ収束が見通せず、世界的な半導体不足、原材料価格やエネルギー価格の高騰、物流網の混乱、国際的な政治・地政学的なリスクなどが発現しており、マテリアル事業領域を中心として影響を受けています。中期経営計画の最終年度である2022年度は目標として掲げた「成長基盤確立」に全力で取り組むとともに、次期中期経営計画を構想し、スピード感を持って、将来像を描く重要な時期でもあります。これまでの成果・結果について、できていることとできていないことをファクトベースで総括するとともに、社会の大きな変化や不確実性の中で、あらためて当社のパーパス(存在意義)を見つめ、社会やお客様が抱える真のイシュー(課題)やペイン(痛み)に正面から向き合うことで、ソリューション提供型のビジネスモデルへの変革を追求したいと考えています。そのためには、イノベーションが起こりやすい組織変革や企業文化の醸成、帝人グループ全体が一体化した強いチーム作りも重要だと考えています。全てのステークホルダーの皆様の幸せのために、当社のパーパスを起点として全社が一丸となり、マテリアリティ(重要課題)の解決に向け、持続的に価値を提供できる企業を目指してまいります。

## 帝人株式会社概要

創 立 …… 1918年6月  
代 表 者 …… 代表取締役社長執行役員 内川 哲茂  
資 本 金 …… 718億円 (2022年3月)  
売 上 高 …… 連結：9,261億円 (2022年3月)  
営 業 利 益 …… 連結：442億円 (2022年3月)  
従 業 員 数 …… 連結：21,815名 (2022年3月)  
主要事業内容 …… マテリアル事業、ヘルスケア事業、IT事業

URL: <https://www.teijin.co.jp>

## 公益財団法人帝人奨学会

HPのQRコードは  
こちら



応募書類送付先及びお問い合わせ先

公益財団法人帝人奨学会

〒100-8585 東京都千代田区霞が関3-2-1  
霞が関コモンゲート西館

TEL:03-3506-4424 E-mail: [kumura@teijin.co.jp](mailto:kumura@teijin.co.jp)  
<https://www.teijin.co.jp/ecco/scholarship/>

※フリーメールアドレスを使用されている場合は、HPのお問い合わせページからご連絡ください。



71th  
**Teijin Kumura Scholar Application Guide (Doctor's Course)**

2023

TEIJIN SCHOLARSHIP FOUNDATION  
KUMURA

**Feature of this scholarship**

- a) Japanese students: ¥100,000/month(Doctor's Course)  
**you can receive other Scholarship.**
- b) Non-Japanese students: ¥60,000/month(Doctor's Course)  
**No need Scholarship repayments** for foreign students.
- c) Teijin Kumura Scholarship Students in a master's course who wish to continue to receive Teijin Kumura Scholarship to be lent in a doctor's course, as well, will be exempted from a part of the screening process.  
(No exemption for granting.)
- d) We select a Scholarship student **with grade and research level.**
- e) **Not obligated to join Teijin Limited.**
- f) If students study abroad while being enrolled at Japanese graduate schools, the Scholarship will be lent or granted up to the regular period.

**Teijin Scholarship Foundation**

# Application Guide

## 1. Qualification Requirements

- (1) The applicant must be a student in a medical /pharmaceutical / bioscience, science, engineering or information science related course at a domestic university.
- (2) Fulfill the following conditions, receive the recommendation of a faculty head or senior faculty professor and the recommendation of a school.
- (3) Students who have decided to study in a Doctor's course from September/October 2022 or April 2023. (Foreign students may also apply.)

\* When you will transfer to another university, please apply from the domestic university that you currently belong to.

## 2. Number of Scholarship Recipients

Doctor's course: 10

\* Among these, about one person is a foreign student.

## 3. Selection Criteria

We select a scholarship student with grade and research level.

## 4. Selection Method

- (1) Preliminary selection  
Screening of application materials
- (2) Secondary selection  
Applicants who pass the preliminary selection will be screened in specialized interview.
  - Medical / pharmaceutical / Bioscience  
(Medical, Pharmaceutical, biology, environmental science, etc)
  - Science (chemistry, physics, material, science, etc)
  - Engineering (electrical/ electronic engineering, machine engineering, architecture, etc)
  - Information science (information systems, electronic systems, etc)
- (3) Final selection  
The foundation's selection committee will interview applicants who pass the secondary selection to determine the scholarship recipients.

## 5. Selection Schedule

Selection method	Schedule	Location
Secondary selection	Early to mid November	Teijin Limited (Tokyo HQ)
Final selection	December 13th	Teijin Limited (Tokyo HQ)

\* Details of selection dates and locations, etc. will be announced separately to applicants.

\* The interview may be changed to web interview due to the influence of coronavirus.

\* Travel expenses for interviews will be fully reimbursed only for domestic transportation in Japan.

\* Students who are planning to study in a Master's course will be received in January-March 2023.

## 6. Documents Submitted (Application form can be downloaded from Our Website)

- (1) Teijin Scholarship Foundation Teijin Kumura Scholar Applicant's Statement (Use the designated form; attach a photograph): Submit a form signed by the applicant in person

- (2) Teijin Scholarship Foundation Teijin Kumura Scholar Recommendation Statement (Use the designated form): Submit a form created by the supervising professor
- (3) Evidence of academic achievements (Latest copy)
- (4) 1 copy of a concise summary of 2-3 A4 pages of your current research brief (It must be character size 11 or more, and monochrome copies)
- (5) Written consent for the handling of personal information (Use the designated form): Submit a form signed by the applicant in person
- (6) Certificate of Eligibility (only foreign students)

## 7. Deadline for Application

Application submission should reach by September 28th, 2022 (Wed).

## 8. Final Decision

The written notice of results for the Final selection process will be sent to university by End of December 2022.

The results will also be sent by email to the applicant.

## 9. Overview of Scholarship Handling

- (1) Loan period  
The loan period is the regular period from April 2023 to the completion of the Doctor's course.  
\* If students study abroad while being enrolled at Japanese graduate schools, the Scholarship will be lent or granted up to the regular period of Doctor's course.
- (2) Value of scholarship and scholarship loan
  - ① Value of scholarship (foreign students)  
The 2023 fiscal year ¥60,000/month  
**(No need Scholarship repayments for foreign students)**
  - ② Value of scholarship loan  
The 2023 fiscal year ¥100,000/month
- (3) Commencement of loan  
From April 2023  
\* The 2022 fall-admissions person is also the same.
- (4) Loan method  
The scholarship loan for 2-months is transferred into the scholarship recipient's personal account at a financial institution at the start of each even-numbered month.
- (5) Loan repayments

a) Scholarship recipients are excused from repayment if they engage in scientific research activities for a designated period at a university research organization, where designated by the foundation (corresponding to the organizations designated by Japan Student Services Organization).

b) In cases other than those described in a) above, the loan is to be repaid in half-yearly installments in a period less than 5 times the number of months of the scholarship loan period, it starting from 6 months after the completion of the loan period. However, the loan is interest free.

- (6) Other
  - a) We accept that you receive other scholarship.
  - b) Not obligated to join Teijin Limited.

# Overview of the Teijin Scholarship Foundation



Teijin Ltd. Founder.  
Seita Kumura  
(1880-1951)

The Teijin Kumura Scholarship system was started to commemorate the 35th anniversary of Teijin Limited's founding in 1953 and to honor the achievements of Seita Kumura, who established rayon manufacturing technology in its own right and is known as the "father of the Japanese rayon industry". The purpose of this Scholarship system is to cultivate young engineers and scientists who would succeed to and develop Mr. Kumura's spirit of creative R&D and contribute to the development of our nation and society and the creation of culture. In July 1954, the company established the foundation "the Teijin Scholarship Foundation" for the scholarship system in order for the further development of the system. With its transition to public interest Incorporated Foundation, it has been accredited by Prime Minister in October 2011.

The essential spirit that has permeated the system since its establishment has not changed. The system is not run for the sake of one company and takes as its central aim the cultivation of the human resources that will be responsible for the development of national society.

Because of this aim, recipients of scholarship loans are excused from repayment if they are involved in research at a university or public laboratory after graduation. In addition, scholarship loans are recognized if an applicant has done well at school, irrespective of economic conditions, etc., in order to cultivate the researchers who will be responsible for the science and technology of the future. Furthermore, since its founding, this system has never set mandatory restraints and has firmly maintained the essential qualities of the foundation. Until this point, about 1,600 people have been active in university research organizations and private companies.

## 1. History

June 1953

Teijin Limited established an educational scholarship system as a project to commemorate the 35th anniversary of the establishment of the company.

July 1954

The Education Minister permitted Teijin Limited to establish the Teijin Scholarship Foundation. The foundation continues to the present day.

October 2011

With its transition to public interest Incorporated Foundation, it has been accredited by Prime Minister.

## 2. Aim

The foundation aims to cultivate human resources who will become aware of their mission as scientists and engineers and be responsible for the development of our nation and society and the creation of culture.

## 3. The Origins of the Names "Teijin Kumura Scholarship" and "Teijin Kumura Scholar"

The scholarship awarded by the foundation was named the "Kumura Scholarship" and the recipients of the scholarship "Kumura Scholars" in order to honor the achievements of Seita Kumura, who was the first person in Japan to establish rayon manufacturing technology and subsequently built the foundations for the development of the rayon industry, and to communicate those achievements eternally to later generations. To mark the 50th anniversary of this scholarship system, they have been renamed the "Teijin Kumura Scholarship" and "Teijin Kumura Scholars" respectively.

## 4. Project Details

Teijin Kumura Scholarship loans are awarded to graduate school students in technology-related disciplines.

## 5. The total number of scholarship recipients

1,706 Teijin Kumura Scholars from the first year of the program (1953) to the 70th (2022).

## 6. Executive <Japanese syllabary order>

### President

Jun Suzuki (Teijin Limited)

### Directors

Hiro Ito (Professor, University of Electro-Communications)

\*Directors and Selection Committee

Shigeru Ohta (Honorary Professor, Hiroshima University)

Haruhiko Ohta (Honorary Professor, Kyushu University)

\*Directors and Selection Committee

### Auditors

Masanori Shimai (Teijin Limited)

Atsushi Takahara (Honorary Professor, Kyushu University)

### Councilors

Nobuharu Iwasawa (Honorary Professor, Tokyo Institute of Technology)

Hiroshi Kanai (Professor, Tohoku University)

Toshiya Koyama (Teijin Limited)

Eiji Yashima (Professor, Nagoya University)

### Selection Committee

Takuzo Aida (Deputy Director, RIKEN Center for Emergent Matter Science)

satoshi Obika (Professor, Osaka University)

Ken-ichiro Kataoka (Teijin Limited)

Toshitake Karasawa (Teijin Limited)

(As of July 2022)

## "Young people go overseas!"

~ Message from a Nobel Prize Laureate in Chemistry (2010) Dr. Ei-ichi Negishi ~

When I joined Teijin in 1958, Shinzo Oya the president at that time told, "Young people must go overseas. You will be able to speak three languages in 30 years, if you learn one language in 10 years. Then you will become world-class talent." The starting point that I was able to walk on such a way is in the word of President Oya.

In the field of chemistry, the competition is worldwide, and our playground has extended across the world. Now, you have to look for the professor from the world and aim for the top in the worldwide competition. For the young people like you, I suggest you to go overseas aggressively.

When you find your own "Dream", please challenge it thoroughly until the truth is investigated. I look forward to your great success in the future.

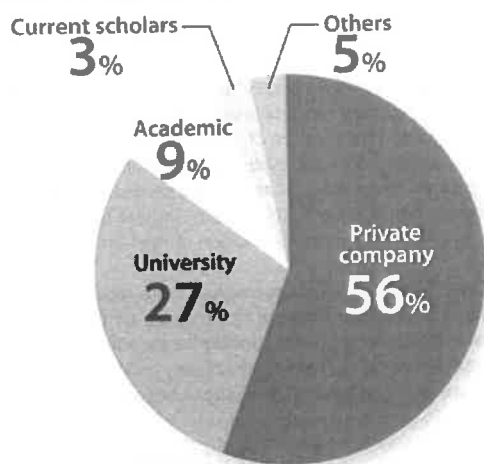


Purdue University  
Distinguished Professor  
Mr. Ei-ichi Negishi  
(Teijin Group Distinguished Fellow)  
5th year Teijin Kumura scholarship (1957)

\*This message was contributed in November 2013.



## TeijinKumura Scholar Data



Total number of Teijin Kumura Scholars **1,706**

Current Teijin Kumura Scholars **47**

(As of July 2022)

## About Teijin Group

Toward the fulfillment of its Long-Term Corporate Vision of "To be a Company that Supports the Society of the Future," the Teijin Group has implemented various initiatives to create growth platforms, including proactively allocating resources to the three solutions of Environmental Value Solutions; the Safety, Security, and Disaster Mitigation Solutions; and the Demographic Change and Increased Health Consciousness Solutions and strengthening the management base to drive innovation, in line with its Medium-Term Management Plan 2020-2022: ALWAYS EVOLVING. In the Materials Business Field, we are striving to shift to a business model focused on providing customers with solutions, including high-performance and lightweight materials for mobility applications, and we are proactively investing in endeavors to achieve carbon neutrality. In the Healthcare Business Field, we have acquired the sales rights for diabetes treatments, and therefore built the foundation for expanding our services to contribute toward preventing lifestyle-related diseases and their development, and we have also embarked upon the regenerative medicine business, which integrates the Teijin Group's technological bases in healthcare, materials and engineering.

Meanwhile, it is still uncertain when the global COVID-19 pandemic, which began to spread worldwide in 2020, will be over. The world is experiencing a global shortage of semiconductors, a sharp rise in materials and energy prices, disruptions in logistics networks, and heightened and realized international political and geopolitical risks. These factors have had a certain impact on our businesses, and mainly on the Materials Business Field. Fiscal 2022, the final fiscal year of our Medium-Term Management Plan, is an important year in which we should not only make a full commitment to achieve the goal of creating growth platforms, but also design the next Medium-Term Management Plan and draw a picture of the future with a sense of speed. We will conduct a fact-based review of the achievements and results we have produced so far from the perspective of what we have successfully done and what we have not done. We will also take a fresh, careful look at our purpose in a society filled with drastic changes and uncertainties, and seriously address real issues and the pain that society and customers are now facing. By doing these things, we aim to transform our business models to those that are focused on delivering solutions. We believe that accomplishing this aim will require the Teijin Group to create an organizational structure and corporate culture that facilitates innovation, and to unite to form a strong team. To bring happiness to all stakeholders, we will make Group-wide efforts, with our purpose as the starting point, to be a company that can continue to provide value with solutions to material issues (materiality).

## Overview of Teijin Limited

Established	June 1918
Representative	Akimoto Uchikawa, President and CEO
Capital	71.8 billion yen (March 2022)
Sales	Consolidated: 926.1 billion yen (March 2022)
Operating profit	Consolidated: 44.2 billion yen (March 2022)
Number of employees	Consolidated: 21,815 (March 2022)
Description of main business	Materials business, Healthcare business, IT

URL: <https://www.teijin.co.jp>

HP QR Code



### Teijin Scholarship Foundation

Direct scholarship application documents and inquiries to:  
 Teijin Scholarship Foundation  
 2-1, Kasumigaseki 3-chome, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8585  
 Tel: 03-3506-4424 E-mail: [kumura@teijin.co.jp](mailto:kumura@teijin.co.jp)  
<https://www.teijin.co.jp/eco/scholarship/>

\*When using free email addresses, contact us via the inquiry page on our website.